

# ふるさと

## 第 4 号



思い出の「春の小川」 (会員の投稿)

### 目 次

今年度の活動をふりかえって	.....
(1)	
第4回麻生ふるさと交流会報告	.....
(2)	
☆ふるさとの思い出☆	
「春の小川」の思い出	.....
(8)	
「大根の首切り」を知っていますか?	.....
(9)	

発行: 2014年4月29日 (第4号)  
発行: 麻生ふるさと交流会事務局  
担当: 平塚 征英 横田 彰夫

# 麻生ふるさと交流会

## 今年度の活動をふりかえって

辻村 一男

各地域の住民には、団塊の世代を迎えた方が多くなってきました。各自がこれまでの経験を生かし、目的をもって地域活動をする事は、地元の活性化につながり、理想的な事なのです。

しかし、地元に関わりが少なく、どんな人が住んでいるのか？どんな環境なのか？居場所はあるのか？見当もつかないのが現状です。そこで一歩踏み出し仲間作りができれば、これまでの経験も生かし、懐かしい思い出や新しい知識も芽ぶき、充実した元気な生活を送られるのです。

このような機会に対応するために「麻生ふるさと交流会」を立ち上げました。前年度までであった「ふるさとぶらり旅」をベースに新企画を考えてまいりました。

先ず、運営委員会を設定し、会員募集、会則、イベントの企画と同時に地域コミュニティー活動支援助成金を申請し、承認されましたことは自信にもつながり、大きく実施に後押しをしてくれたと思っております。この一年を振り返って、4回のイベントを通して、ご意見等頂戴しつつ充実してきました。

結果的には、イベントの盛り上がりから、会報「ふるさと」の発行、秦野市の意見交換、参加者の増加、等のプラス面は多数ありますが、課題としては企画内容のマンネリ化、スケジュール時間配分、会場の確保等の問題点も見えてきました。

さらに次のステップには会の存在感を考え、斬新な企画と、懐かしい思い出から会員の輪が広げられるよう発展して行こうと思っています。

これからもますますのご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

(麻生ふるさと交流会 副会長)

## 第4回麻生ふるさと交流会：報告

場 所：麻生市民交流館 やまゆり

日 時：平成26年3月1日(土)

15時30分～19時

### 第1部：麻生ふるさと交流会（司会 辻村一男さん）

15時30分～18時20分

辻村さんの司会によって第4回麻生ふるさと交流会が開始されました。松本会長より今後の活動の方針なども含む挨拶を頂きました。

参加人数は38名で、今回初めて参加された方は2名でした。



司会の辻村さん



松本会長の挨拶

### 第1部の1：東京グループの皆様による「ふるさと自慢」

東京グループは、植木昌昭・吉田謙司・辻村一男・宮本直紀・茂木弘・赤荻克己・今井正・海崎各氏の8人の発表でした。最初に、海崎さんから皆さんの出身地をJR地図を使って紹介されました。



海崎さんによる皆さんの出身地の紹介



欠席の植木さん：高輪の思い出



吉田さん：東京の富士塚



鳩森神社:最古の富士塚



7/1の山開きには富士塚に登ろう！



辻村さん



目黒区祐天寺の風景



幼いころの遊びの思い出



宮本さん：  
渋谷、笹塚、初台、幡ヶ谷の地名の謂れ



今井さん：  
上野、下谷での思い出、ガキ大将だった頃、  
吉原のやり手バーさんと吉原言葉



茂木さん



お手製の紙芝居



防空壕のあった小学校



赤荻さん：大田区



池上本門寺



洗足池



海崎さん



増上寺：徳川家の菩提寺



大規模開発が進む虎ノ門界隈

## 第1部の2：北陸グループの皆様による「ふるさと自慢」

北陸グループは、石川県出身の鈴木毅さんと、富山県人会の松本良樹・高橋武彦さんの発表でした（出身地ではなく、転勤地だそうです）。

前半は、鈴木さんの熱弁でした。開口一番、“すーさんです！”。家宝の紹介も。



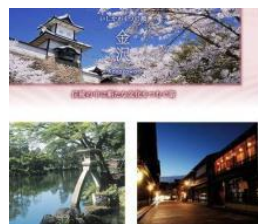
すーさんです！



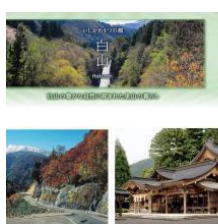
石川県と金沢市



石川の4つの顔 ① 能登



② 金沢



③ 白山



④ 加賀



美術館・博物館・記念館



金沢の歴史



金沢城公園



鈴木家の家宝 槍の穂先



古文書



勲章

後半は、松本さんと高橋さんの絶妙な掛け合いによる、転勤時代の富山県の紹介でした。



松本さんと高橋さん



蜃気楼



ホタルイカ①



ホタルイカ②



寒ブリ



越前ガニ



大友家持の歌 (朗詠付き)



御車山祭り



おわら風の盆

東京グループ・北陸グループ共に熱弁の連続で、発表予定時間の2倍近くかかってしまいました。

最後に宮本さんから、今後の予定などの事務連絡があり、第1部が終了しました。

## 第2部：交流と懇親を深める会 (司会 松本 啓さん)

懇親会は松本 啓さんの司会で始まり、先ず、皆さんからのお酒や料理の差し入れが紹介されました。乾杯の音頭は、第1部の発表で活躍された鈴木さんをお願いしました。差し入れの飲み物・食べ物で大変盛り上がりました。

今回の初参加は、片嶋さんと埜口さんのお二人でした。

田中さん差し入れの福井の厚揚げ残り一枚の、取りりジャンケンもありました。

今回も会員有志の方々より、色々と沢山の差し入れを頂戴しました。(敬称略)

### お酒

宗玄、立山、佐渡の生原酒(至)、甘酒、雪中梅、赤ワイン、白ワイン

} 鈴木・北陸G・吉岡・宮本・平塚・田中元・千葉

### お料理

キンカン煮、タンカン、しょうゆ豆 福井の厚揚げ、浜焼きせんべい

} 吉岡・茂木・松本啓・田中幹・五十嵐





司会：松本啓さん



乾杯音頭：すーさん



片嶋さん



埜口さん



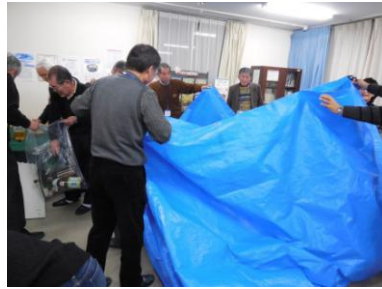
厚揚げ取り切り  
ジャンケン大会



勝ったのは  
千葉さん







今回も後片付けのお手伝いを有難うございました！

#### <運営委員会からのお知らせ>

ふるさと交流会終了後の3月4日（火）に拡大運営委員会を開催し、今年度の反省や来年度の計画について討議しました。

平成26年度総会は4月29日（火、祝）15時から開催することになりました。

今年度の反省として、会員数は目標の50名に対し57名、お国自慢発表会は設立総会時の事例発表を含め4回開催することが出来たので、計画に対して成果が十分であったものとの結論となりました。

ただ、第4回のお国自慢発表が、2グループ共に予定時間の2倍近く掛かった事は運営上の問題があるので、発表時間の延長・開始時間の繰上げや発表者の時間管理意識向上や第2部懇親会の進行方法など今後の方向について確認した。

また、来年度の計画としては、助成金事業の申請を前提に、従来とは異なった新しい計画（例えば、バスツアーなどの追加）を策定する事が確認された。

## 「春の小川」の思い出

茂木 弘

私は童謡「春の小川」に歌われた小川でザリガニ取りに夢中でした。

小田急線代々木八幡駅と参宮橋の間を流れている「河骨川」が、童謡「春の小川」の舞台と言われております。

その「河骨川」でザリガニ取りや、電車のレールに釘を置き「手裏剣づくり」で夢中に遊んだ事を思い出します。当時の私は「春の小川」の童謡がここで生まれたことなど全く知りませんでした。

春の小川は さらさら行くよ  
岸のすみれや れんげの花に  
すがたやさしく 色うつくしく  
咲けよ咲けよと ささやきながら

春の小川は さらさら行くよ  
えびやめだかや 小ぶなのむれに  
今日も一日 ひなたでおよぎ  
遊べ遊べと ささやきながら

童謡「春の小川」は作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一のコンビによる童謡・唱歌です。1912年に発表されています。

高野辰之が、当時住んでいた東京府豊多摩郡代々幡村(現在の渋谷区代々木)周辺を流れる「河骨川」の情景を歌ったものとされています。

両者の作品としては「故郷(ふるさと)」、「春が来た」、「朧月夜(おぼろづきよ)」、「紅葉(もみじ)」などが特に有名です。

文部省唱歌「春の小川」の歌碑(記念碑)は渋谷区代々木5丁目の小田急線代々木八幡駅付近の線路沿いに建てられています。

現在の「河骨川」は、コンクリートとアスファルトで蓋が閉まった状態の暗渠となっています。



現在の小田急線と小道(河骨川)  
(コンクリとアスファルトの暗渠)



「春の小川」の歌碑(記念碑)

編集者注：第4号表紙は茂木さんに描いて頂きました。

## 「大根の首切り」を知っていますか？

平塚 征英



3月中旬に初めて四国お遍路に行ってきました。四国八十八ヶ所霊場の内、第51番・石手寺から第88番・大窪寺までを9日間で巡りました。同じ歳の従兄弟が既に2巡半廻っており、残り半分の歩き遍路に同行したものです。

第56番・泰山寺(今治市)を打ち終え、少し歩いた所で出会ったのが、葉っぱが付いていない大根の列でした。包丁で葉を切り

落としたようで、“大根の首切り”のように滑稽な、又、異様な印象を受けました。

同様な光景は至る所で見られ、家庭菜園をやっている従兄弟にも、何のためか判らずで、謎は深まるばかりでした。第59番・国分寺へ向かう途中でも、同様な光景に出会い、少し離れた畑に居た人に質問すると、“大根にスが入らないようにするために”との事で、今までの疑問が解けてスッキリしました。

香川県に入って第66番・雲辺寺から下った民宿青空屋(観音寺市)付近でも又もや目撃しました。以後、第71番・弥谷寺や第80番・国分寺付近でも見られ、少なくとも四国の瀬戸内地方では同様な習慣があると判りました。



民宿青空屋付近で



弥谷寺を過ぎてから



満濃池の麓で

ネット情報によると、大根の葉を付けたまま植えておくと、トウが立って「す」が入り味が悪くなる。全部収穫しても保存に困るので、大根の首を切れば傷めずに地中に保存できるコツとの事でした。香川県出身の松本さんが、ぶっかけうどんに必要な大根おろしのためには、新鮮な大根を保存する必要があると教えてくれました。

右の写真は、「ふるさと」らしい写真を撮ろうと考え、満濃池の麓の風景を写したものです。

会員の横田さんが付近の出身で、事前に情報を頂きましたが、写真を送ったら、「墓参り有難う！」の返信。写っているお墓が実家のお墓であること、遠くに実家も写っているとは、全くの奇遇でした。



会報の表紙写真は未だ募集中です！（編集担当）